武　一　中

令和２年５月１１日
武蔵野市立第一中学校

URL:http://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/

学校だよりＲ２－２号

壁にぶつかったとき

校長　　中嶋　建一郎

新型コロナウイルスへの対応が続き、学校の休業が延長されます。教科の学習の取組みも大切ですが、心の持ち方、考え方を学ぶことも大切だと考えています。私が以前に読んだ本の内容を紹介しますので、これからの生活に生かしてください。

これから先、大きな壁にぶつかったときにどうしたらいいか。という話です。

よく卒業式などの話で「大きな壁、困難な壁にぶつかっても決してくじけることなく、頑張って乗り越えていってください」という言葉が出てきます。このことについて、東京大学で希望学を研究している教授、玄田有史さんは、著書の「希望のつくり方」の中で「そんな大きな壁を自分の力では乗り越えられないことも、しょっちゅう起こります。乗り越えられないもののことを壁というんじゃないか」と言っています。

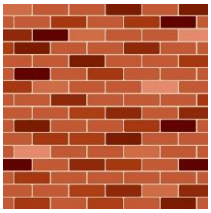
玄田さんは、「正解は無いけれど自分の経験や実感からは、壁の前でウロウロすることが大切だ」と言っています。続けて引用します。

「ウロウロするだけでは意味がないと思うかもしれない。でもウロウロすることで、壁の下に小さな穴をみつけるかもしれない。その穴を手で掘り続けるとトンネルができて、勇気を出してもぐりこむと壁の向こうにたどり着くことがある。その穴は、行動せずに立ち止まっていては見つからなかったかもしれない」

私も玄田さんの「壁の前をウロウロする」考えに賛成します。私自身、何度か壁にぶつかって、壁の前をウロウロして小さな穴を見つけたことがあります。玄田さんはさらにこう言っています。

「見通しもわからないまま、挫折しそうな壁の前で、ただウロウロするなんて、たしかに無駄なことのように思えます。けれども希望は、無駄とか損とかいう計算の向こうにみつかったりするものです。そして、挫折を経験しながらも、ときに他の誰かの力をかりて試練をくぐり抜けていこうとする行為そのものに、希望は宿るのです」

これまでの経験で考えて「これは無駄だな」とか「これをやっても損するだけだ」、「意味ない」と結論付けるのではなく、「無駄かもしれないけれどやってみよう」ということや、一度や二度の失敗は気にせずに、また「一人でやらなくては」と気負い過ぎずに「他の誰かの力」もかりて行うのです。



まとめると

① 固まったり、立ち止まったりしないで、行動する（ウロウロする）
② 一度や二度の失敗にくじけない
③ 他の人の力もかりる

特に①の「行動すること」は大切です。勉強が手につかない時に、まず何か始めてみることと同じ考えです。